

## ヒメヒカゲによる吸汁とイヌツゲでの吸蜜事例

島崎正美・島崎能子

ヒメヒカゲ (以下, 本種) についてはノイバラ (*Rosa multiflora*) での吸蜜, 湿り気のある路面での吸汁, および路面に落ちた野鳥の糞周りで吸汁する場面などを観察して報告 (島崎, 2013) し, その後 2021 年 5 月にケネザサの葉上で口吻を伸ばして何かを吸汁するオスを朝露が残っていないと考えられる時間帯の 11 時 48 分に初めて記録している (図 1).

今回, 2021 年 6 月にウラナミジャノメが吸蜜する場面を観察し, 珍しい事例だとして報告をしている (島崎, 2021) イヌツゲ (*Ilex crenata*) の花に本種が口吻を伸ばして確かに吸蜜している場面を観察記録できたので報告する (図 2).

加古川市で本種が生息する草むらで吸蜜できる植物の多くは白いノイバラで, そのほかにはイシモチソウ (白), コモウセンゴケ (赤) があり, イチモチソウに近づいてその粘液滴につかまり, 危うく犠牲になりそうな本種 (図 3) を目撃したことがある. そのときは羽ばたきもがいて脱出しているが, イシモチソウの花で吸蜜しようとしたのではなく, 偶然近くを飛んで粘液滴につかまったように思えた.

本種については, 行動範囲や生存期間などの調査目的で翅に直接マジックペンでマーキングをすることがあるが, マーキング後に放した個体がノイバラの白い花上へと飛んでいく事例を何度も経験している (図 4). いずれの場合も花芯に口吻を伸ばしてはいなく, 思いもよらないマーキングという仕打ちにあって気が動転した後, 気もちを落ちつかせる場所として白い花が何らかの意味を持っているように思える. いずれにしても興味ある習性で, 今後も注意して生態観察を継続する.

### ○参考文献

- 島崎正美, 2013, ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus arothius* に関する観察記録 -2. やどりが, (237): 33-40  
 島崎正美・島崎能子, 2021, ウラナミジャノメがイヌツゲとノイバラで吸蜜. きべりはむし, 44(2): 55-56

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)  
 (Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)



図1 2020年5月28日, ヒメヒカゲの♀がケネザサ上で吸汁.



図2 2021年6月14日, イヌツゲの花で吸蜜中のヒメヒカゲ♀.



図3 2012年6月7日, イシモチソウに捕まったヒメヒカゲ♀.

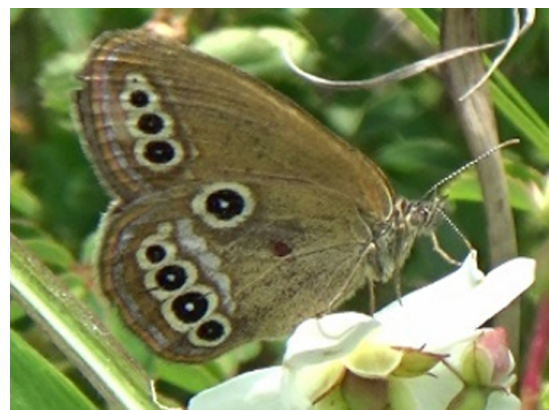


図4 2019年6月11日, 翅にマーキングされた後, ノイバラの花上に落ち着くヒメヒカゲ♀.